

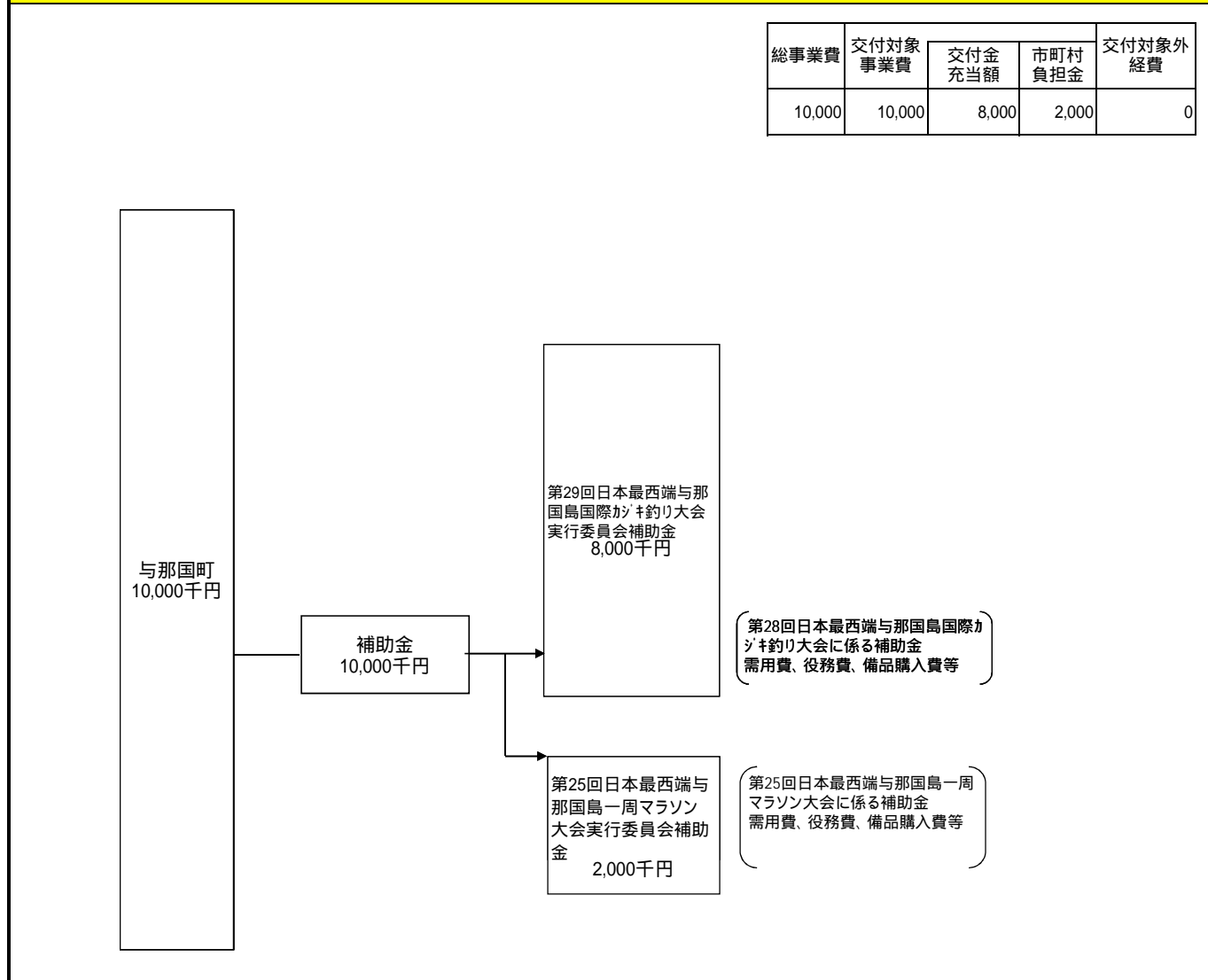
市町村名		与那国町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-		地域振興対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
	担当部課名	企画財政課 交流推進班		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容		「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」及び「与那国島一周マラソン大会」に、これまでの参加者の再訪と、島外からの参加者を募り既存の観光イベントへの活性化を図る。					-1-(1)	
	効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
		(a)当初予算額		9,000	8,100	10,000	10,000	10,000
		(b)予算現額		6,200	8,100	10,000	10,000	10,000
		(c)増減額(b-a)		2,800	0	0	0	0
		(d)繰越額		-	-	-	-	-
	A.計(b+d)			6,200	8,100	10,000	10,000	10,000
	B.執行済額			6,200	8,100	10,000	10,000	10,000
	うち交付金充当額			4,960	6,480	8,000	8,000	8,000
	次年度繰越額			0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度		
	カジキ釣り大会の補助(7月)	目標	(カジキ釣り大会の実施)	(カジキ釣り大会の実施)	(カジキ釣り大会の実施)	(カジキ釣り大会の実施)		
		実績	カジキ釣り大会の実施	カジキ釣り大会の実施	カジキ釣り大会の実施	カジキ釣り大会の実施		
	一周マラソン大会の補助(11月)	目標	(一周マラソン大会の実施)	(一周マラソン大会の実施)	(一周マラソン大会の実施)	(一周マラソン大会の実施)		
実績		一周マラソン大会の実施	一周マラソン大会の実施	一周マラソン大会の実施	一周マラソン大会の実施			
達成状況説明		指標として掲げた2つの大会を本年も大盛況にて開催することが出来た。カジキ釣り大会については、リピーターの参加者が多い為、新規参加者が増えればさらに活気ある大会となると考えられる。しかしながら、カジキ釣りとなると専門的になるため、磯釣り大会等気軽に参加できる部門やアトラクションについてもアピールを強化し、参加者増を目指す。マラソン大会においても参加者は減となったが、他離島などの連携も視野に入れ参加者確保に努めたい。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30活動目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)	
	カジキ釣り大会参加者 一周マラソン大会参加者	目標	()	(110人) (800人)	(110人) (800人)	(110人) (700人)	()	
		実績		(94人) (565人)	(132人) (636人)	(118人) (531人)		
	【参考指標】イベント開催月の入域観光客数 上段:7月 下段:11月	目標	()	(3000人) (3500人)	(3,000人) (3,500人)	(3,000人) (3,500人)	()	
		実績		(2734人) (3458人)	(2778人) (3655人)	(2535人) (3524人)		
進捗状況説明		「日本最西端与那国島国際カジキ釣り大会」「日本最西端与那国島一周マラソン大会」両大会ともに参加者は減少。入域観光客数としても、H28年 29年と比較し減少する結果となった。要因として考えられるものとして、日本各地で台風や地震等災害発生が影響したのではないかと考えられる。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・「日本最西端与那国島国際カジ釣り大会」においては、トローリングの部について参加者数の増加が難しい状況がある（受け入れ可能な漁船に限りがあるため。）</p> <p>・「与那国島一周マラソン大会」においては、県内参加者の割合が多く、県外へのマラソン大会のPR活動もより積極的に取組み大会参加者の増加の促進につなげる必要がある。しかし、宿泊施設に限りがあり、公共施設での宿泊を案内することが出来たが、問合せ頂いた方のみ案内となってしまうため、広報が不十分であった可能性がある。</p>	<p>・釣りへの参加のハードルを下げる工夫が必要で、低予算で釣りの体験ができ、与那国へ釣りを目的として来るお客さんの入り口となる大会を目指す。また、漁船の不足分には島外協力依頼等も検討し、参加者増につなげたい。</p> <p>・与那国島での大会参加者の宿泊先や受け入れ体制についての環境整備や告知をし、宿泊施設の不足が原因による参加者の取りこぼしが無い様尽力したい。そのためにも宿泊施設や受け入れ態勢の整備が必要である。</p>

今後の取り組み方針

宿泊施設などの環境整備を進め、より多くの参加希望者が来島していただける様取り組んでいきたい。各大会の参加のみならず、滞在時間の延長やリピーターとして来島を促し、さらなる地域振興の活性化を図りたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	カジ釣り大会及び一周マラソン大会実行委員会からの補助金交付申請により事業内容を確認の上で決定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	委託事業者は氏名競争入札方式で企業組織、実績を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町								
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	1- 与那国島特産品アピール力強化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア					
担当部署名	企画財政課 交流推進班		事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興			
事業内容	離島地区であり、日頃より触れる機会の少ない与那国町の特産品の良さを知ってもらう為に、県内及び県外の物産展への出展及び効果的な販売方法についての講習会を行い、県内及び県外への販路開拓を図る。									
効果発現年度	当年度		後年度(年度)							
実施方法	直接実施		委託		補助		負担		その他 ()	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度			
		(a)当初予算額	4,500	4,500	7,286	8,000	8,000			
		(b)予算現額	3,045	4,500	7,286	8,000	8,000			
		(c)増減額(b-a)	1,455	0	0	0	0			
		(d)繰越額	-	-	-					
	A.計(b+d)		3,045	4,500	7,286	8,000	8,000			
	B.執行済額		3,045	3,408	5,542	5,122	6,288			
	うち交付金充当額		2,436	2,726	4,433	4,097	5,030			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	75.7%	76.1%	64.0%	78.6%			
予算の状況の説明		予算が不用額の発生に関しては、島外物産展の出展に予定していた事業者のうち参加できなかった事業者が発生し、旅費や出展に係る費用が削減されたことが要因としてあげられる。								
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況							
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度				
	県内外への新しい販路の開拓を行い、与那国島産品の売り上げ増加を図る。		目標	(講習会開催 4回)	(講習会開催 4回)	(講習会開催 4回)	(売上増を図る)			
			実績	(講習会開催 4回)	(講習会開催 4回)	(講習会開催 3回)	(実施)			
	講習会の開催、特産品の県内及び県外の物産展への出展		目標	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	()			
実績			(県内出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	(県内出展1回 県外出展1回)	()				
県内出展1回、県外出展1回										
達成状況説明	H30年度の講習会は物産展へ向けた売り場づくりをはじめ、商品の課題や改善点等専門家による個別に指導を行った。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)			
	参加した物産展における与那国島産品の売り上げ高180万円以上		目標	()	()	180万円以上	()			
			実績	/	()	約150万円	/			
	【参考指標】物産展出展数13事業者		目標	()	(出店事業者数 12業者)	(出店事業者数 13業者)	()			
			実績	/	出店事業者数 8業者	出店事業者数 10業者	/			
進捗状況説明	H30年度の出展業者数はH29年度を1社下回る9社の実績であった。今まで横浜ららぽーとで物産展を行い、リピーターの来場者も多数みられていたが、H30年度においては、物産展開催地を名古屋に変更したこともあり、目標売上を下回る結果となった。横浜で定着しつつあった物産展の方が売り上げの見込みは立っていたが、同開催地のみではなく、他開催地においても与那国島の魅力を知ってもらいたいという思いがあったが、開催地の現場調査や傾向十分な開催アピールを行う等今後は検討が必要である。									

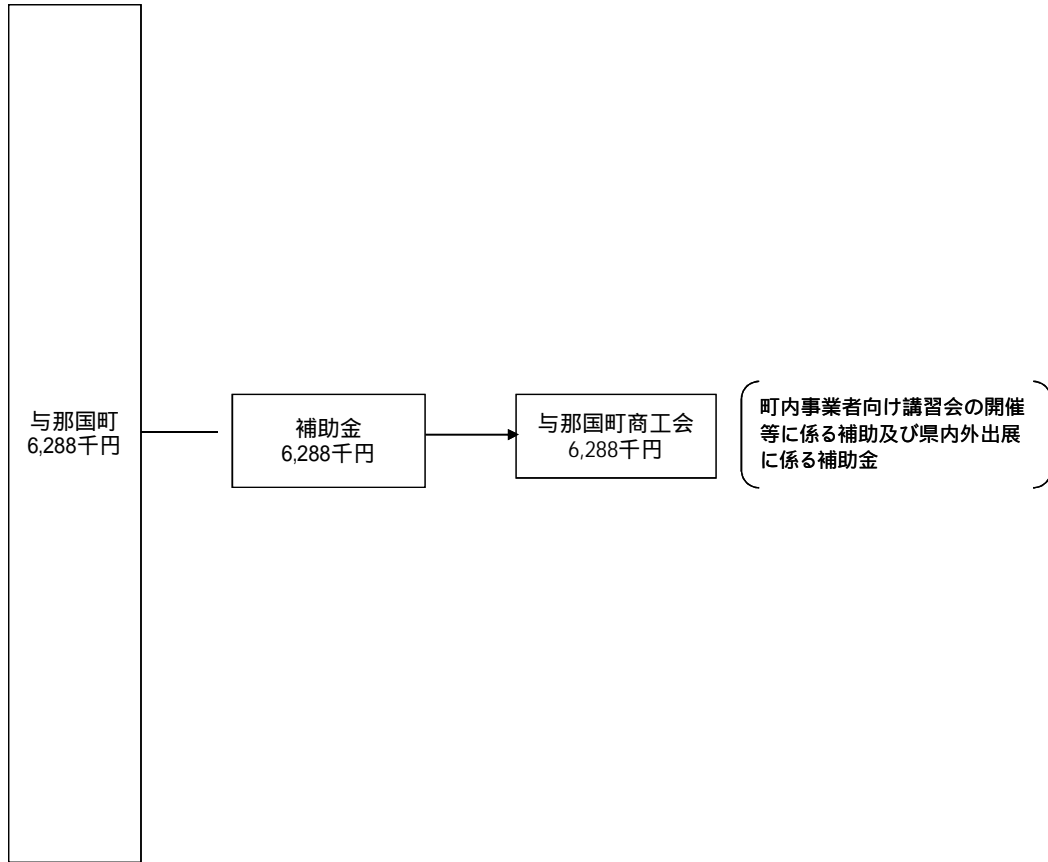
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	いざ他業者や個人と接する機会ができて各事業者自ら新規事業者の開拓やプレゼンテーションがうまくいかず機会の損失になってしまっているところがあるため、共通課題として商品のプレゼンテーションの方法や商談のノウハウなどの強化が必要である。	事業者の共通課題である販路開拓をテーマとした講習内容への変更、事業者の経営規模にあった商談先との引き合わせ、県外物産展と平行して行う商談会などを検討する。

今後の取り組み方針

与那国町の各事業者のスキルアップと県内外の物産展への出店に継続的に取り組む。また、各事業者の共通課題である販路開拓をテーマにした講習会の開催や、自主的に販促活動が行えるように情報を提供するなど、販売意欲や意識の改善につなげていきたい。また同時に引き続き県外物産展と平行して、商談会を実施する機会を増やしていけるよう検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,288	6,288	5,030	1,208	0



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	補助金の支出先については、与那国町特産品強化事業補助金交付要綱に基づき選定した。執行額に減額があったもののほぼ適正規模だと考える。費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	与那国町誘客促進活性化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	企画財政課 交流推進班	事業実施(予定)年度	平成30～令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	与那国島観光物産・伝統芸能フェアを開催し、与那国島のPR活動を行うことで、観光誘客に繋げる。						
効果発現年度	当年度 後年度(年度)						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	30年度	31年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
		(a)当初予算額	5,034				
	(b)予算現額	5,034					
	(c)増減額(b-a)	0					
	(d)繰越額	0					
	A.計(b+d)	5,034					
	B.執行済額	5,034					
	うち交付金充当額	4,027					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	当初計画していた予算執行は未執行であったものの、その他の予算執行は適正であった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)	達成状況					
		30年度	令和元年度	令和2年	令和3年		
	・与那国島観光物産・伝統芸能フェアの開催	目標	(開催)	()	()	()	
		実績	未実施				
	・トップセールスによる空路開拓、商品造成	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	・PRツール作成	目標	(作成)	()	()	()	
		実績	実施				
	・既存事業の内容充実とPR強化	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
・観光客意識調査や市場調査等による情報収集と分析	目標	(実施)	()	()	()		
	実績	実施					
達成状況説明	・県内でのフェアを予定していたが、会場確保の調整が厳しく断念した。しかしながら、トップセールス、パンフレット、観光動向調査及び既存イベントでのPR活動ができ誘客促進を図れた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)	基準値(年度)	30年度	令和元年度	令和2年度	目標値(年度)	
	・チャーター便による観光入域客数 527人	目標	()	527人	()	()	()
		実績		1,280人			
	【参考指標】 ・物産・伝統芸能フェア来場者数 450人	目標	()	(450人)	()	()	()
実績			0人				
進捗状況説明	・当初計画していたフェアは未開催であったもののチャーター便による誘客に関しては概ね目標数に達しており適正だったと考える。						

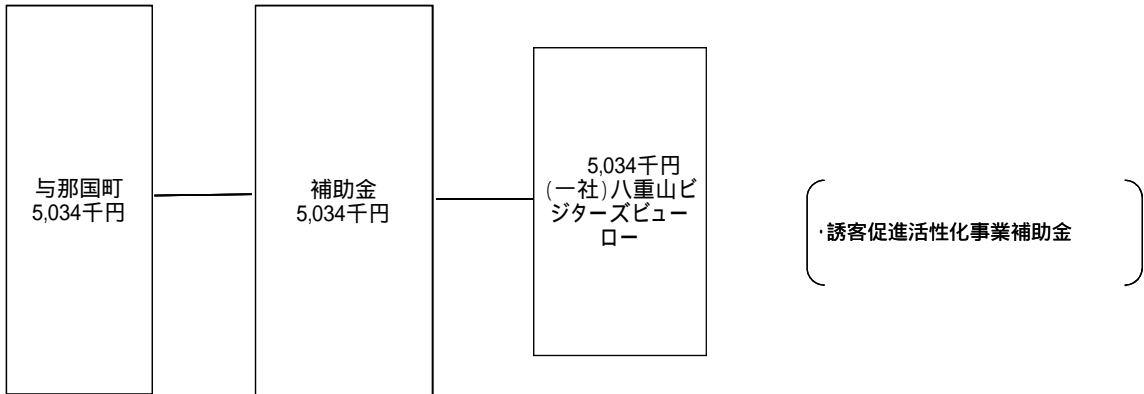
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・予定していたフェア開催会場の確保並びに調整等に時間を要しており未開催となった。なお、1年以上前からの会場の確保が必要であったことから交付決定等の調整が必要である。</p>	<p>・フェア開催地の確保等の調整を踏まえ連携(交付決定及び関係者等の連携)及び体制強化に努める。また、関係者も含め、事前調整を万全に努める。</p>

今後の取り組み方針

・フェア開催に向けて事前に会場の確保(仮)及び関係各位等の調整に努め、事業を行うとともに、トップセールスの実施、観光動向調査を引き続き実施し誘客促進活性化に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,034	5,034	4,027	1,007	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>八重山観光関係を網羅する社団法人であるため適正であった。 一部未執行であったもののその他事業に見合った規模であり適正であった。 一般社団法人(各首長組織)であるため妥当と考える。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	与那国町多言語観光案内サイン整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
担当部課名	企画財政課 交流推進班	事業実施(予定)年度	平成29～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興	
事業内容	海外からの観光客の利便性の確保を図るため、多言語観光案内板を整備する。						
効果発現年度	当年度		後年度(令和元年度)				
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()	
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
		(a)当初予算額	10,644	10,644			
		(b)予算現額	10,644	10,644			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)	10,644	10,644				
	B.執行済額	10,530	10,519				
	うち交付金充当額	8,424	8,415				
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	98.9%	98.8%				
予算の状況の説明	予算は、計画のとおり執行されており適正な予算規模であった。不用額114千円は入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			29年度	30年度	令和元年度	令和2年	
	多言語観光案内板の整備を実施	目標	(多言語観光案内板16基整備)	(整備実施)	()	()	
		実績	16基整備完了	実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・既存案内板16基を多言語観光案内サイン板として整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(年度)
	既存観光案内板改修:16基完了	目標	()	(観光案内板16基整備)	(16基)	()	()
		実績		16基整備完了	16基整備完了		
	進捗状況説明	・既存案内板16基の整備を完了した。					

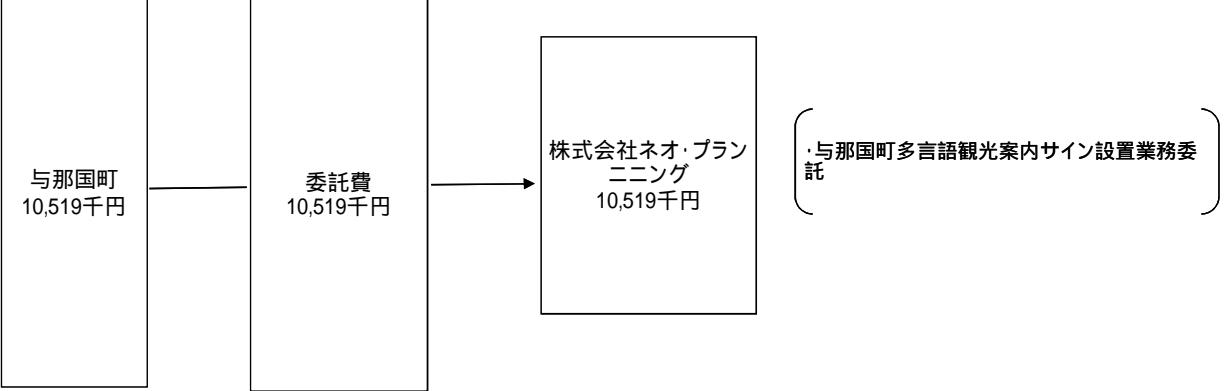
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・外国人観光客が増加している中、多言語観光案内サイン板が利便性の向上につながっているか(インパウンド)効果を計る必要がある。	・整備後の事業効果を検証するため、観光客数のみならず具体的に今後も利活用するためアンケート調査を実施する。

今後の取り組み方針

・島内でのアンケート調査を行い、併せて動向調査を独自で実施するとともに国内はもとより国外(インパウンド)観光客への満足度を向上に努め観光振興に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,519	10,519	8,415	2,104	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は、指名競争入札にて選定されており、妥当であったと考えている。 不用額はあったものの入札残によるものであり適正であった。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-		海底景観資源調査事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-(ア)	
	担当部課名	与那国町教育委員会 教育課		事業実施(予定)年度	平成29年～令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興
事業内容		与那国を象徴する海底地形に対して、最先端のマルチビーム測深調査を実施し、観光資源として適切な活用及び保全、学術研究の基礎となる海底精密地形図を作成する。					-1-(1)
	効果発現年度	当年度		後年度(令和2年度)			
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他()	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H29年度		H30年度		R元年度	
		(a)当初予算額	11,700	15,500			
	(b)予算現額	11,700	15,500				
	(c)増減額(b-a)	0	0				
	(d)繰越額	0	0				
	A.計(b+d)	11,700	15,500				
	B.執行済額	11,700	15,500				
	うち交付金充当額	9,360	12,400				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明	当初計画のとおり委託を適正に執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度			
	測深データ処理	目標	(実施)	(実施)			
		実績	実施	実施			
	潜水調査	目標	(実施)	(実施)			
実績		実施	実施				
達成状況説明	平成29年度に取得した測深データの処理を浅海底フロンティアセンターにて、データの可視化(地図化)にあたって必要な測深エリアの地形確認・地形学的観察を与那国島沿岸で実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	マルチビーム測深データ処理16.3平方km	目標	()	()	()	(16.3平方km)	()
		実績				16.3平方km	
	北海岸マルチビーム測深調査7平方km【R2成果目標】 作成した海底地形図を活用したグラスポートツアー等の参加者数3,100人	目標	()	()	(18平方km)	(7平方km)	()
		実績			16.3平方km	30.4平方km	
進捗状況説明	平成29年度に取得した南海岸のマルチビーム測深データ(16.3平方km)について、地図化を行うためのデータ処理を実施した。 測深調査は北海岸を対象とし、最終的に30.4平方kmの測深を実施した。						

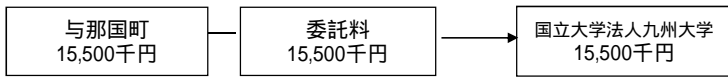
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・測深データの処理は、手作業でのノイズ除去など時間がかかる手順を踏む必要がある。委託事業者は高精度海底地形の地図化および学術調査・研究の実績があり、契約期間内に適切に実施された。</p> <p>・測深範囲の面積は目標値を大きく上回ったが、北海岸であるため、季節風を考慮し7月に実施したこと、天候に恵まれたこと、備船の協力により、調査時間を可能な限り延長して測深できたことが要因である。</p>	<p>委託事業者は、琉球列島の浅海底珊瑚礁地形の地図化、学術調査・研究では国内唯一の専門機関であるため、測深に適した備船、調査日程の選定、最新の気象情報収集に基づいた調査が実施でき、特に改善の必要はないと考える。</p>

今後の取り組み方針

29、30年度で島の周囲の測深が完了し、31年度に北海岸のデータ処理が終われば、はじめて、与那国島の海底景観資源を具体的に可視化できる精密海底地形図が完成する。精密海底地形図は、既存の観光資源(海底景観資源)を、さらに魅力ある観光資源として発展させるため、与那国島の魅力を広く世間に知らせることができるツールとして活用する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,500	15,500	12,400	3,100	



海底地形に関する調査研究に資するマルチチーム測深調査

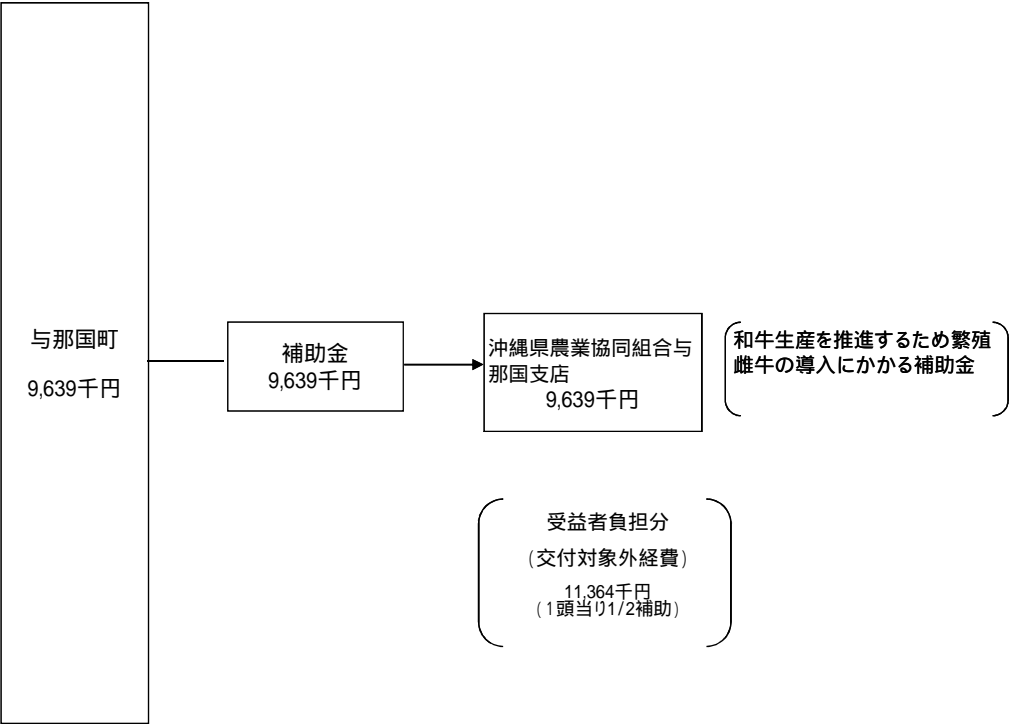
資金の流れ、費目、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託事業者は測深だけでなく、海底地形を科学的に評価できる国内唯一の専門機関であり、本事業者でなければ、確実な対応、成果が期待できない事から、随意契約は妥当であったと考えている。</p> <p>予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町								
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	2-	優良牛繁殖雌牛導入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-工				
担当部署名	産業振興課 農林水産班	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策の強化 - 1 - (6)				
事業内容	与那国町の和牛生産を推進すると共に、繁殖雌牛の生産基盤の拡充・強化を図り、改良を促進し、肉用牛の資質向上を図るために、与那国町の農業従事者団体に対して、優良繁殖雌牛購入費用の一部を支援する。									
効果発現年度	当年度		後年度(年度)							
実施方法	直接実施		委託		補助		負担		その他 ()	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度			
		(a)当初予算額	3,200	9,000	4,500	10,000	10,000			
		(b)予算現額	6,222	7,500	8,964	15,000	10,000			
		(c)増減額(b-a)	3,022	1,500	4,464	5,000	0			
		(d)繰越額	-	-	-	-	-			
	A.計(b+d)		6,222	7,500	8,964	15,000	10,000			
	B.執行済額		6,222	4,800	8,649	10,891	9,639			
	うち交付金充当額		4,977	3,840	6,919	8,712	7,711			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	64.0%	96.5%	72.6%	96.4%			
予算の状況の説明		当初計画していた、導入頭数20頭については予定どおり実施した。予算残額で追加要望のあった農家2名が3頭の導入を行い計23頭の導入となりしたが、不用額361千円が発生した。								
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況							
			27年度	28年度	29年度	30年度				
	優良母牛導入の支援		目標	(優良牛繁殖雌牛導入の実施)	(優良牛繁殖雌牛導入の実施)	(30頭)	(20頭)			
			実績	優良牛繁殖雌牛導入の実施	優良牛繁殖雌牛導入の実施	24頭	23頭			
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・優良牛繁殖雌牛導入の実施20頭を目標に事業を進めたが、事業執行時において導入希望者が当初予定者より増加したことにより導入率が115%に増加した。 ・和牛生産の安定を図るため、優良繁殖雌牛の導入にかかる費用の一部を実施したことにより、老廃牛の更新が図られ本町の畜産振興及びの農家所得の向上が図られた。 								
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)			
	導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合109%以上		目標	()	()	(109%以上)	(109%以上)	()		
			実績			111.0%	114.0%			
	【参考指標】優良牛繁殖雌牛導入率		目標	()	45%	()	()	()		
			実績		61.6%					
	進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・導入した優良母牛から生まれた子牛とそうでない子牛との価格差の割合109%以上を目標に事業を進めた。 ・優良母牛から生まれた子牛の平均価格が712,011円に対しそうでない子牛の平均価格が619,727円となり成果目標の109%を達成することが出来た。 							

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> これまで本事業を活用し導入促進を進めてきたが、優良母牛の血統の偏りが見受けられる。 島内東地区において、畜産用水道施設の老朽化に伴い送水が出来ないことにより、高齢者によるの用水運搬が負担となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> より優良な優良繁殖雌牛導入を図るため、導入地域を変更することにより偏った血統にならないよう検討する必要がある。 高齢者の廃業を考える農家が出てきているため、早急な畜産用水道施設の確保が必要である。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> より優良な優良繁殖雌牛導入のため、適切な導入場所等の情報を収集し購買者が求める優良繁殖雌牛の選定を行い、与那国島の環境や経営形態に適した優良繁殖雌牛の確保に取組む。 島内東地区における畜産用水道施設の整備を図るため関係機関と調整を図り、早急な整備に向けた取り組みを図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
21,003	9,639	7,711	1,928	11,364



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	補助金の支出先については、農協を窓口して畜産農家を対象としていることから、支出先として妥当であると考え、子牛価格の高騰が続く中で予算規模については、妥当な金額であったと考える。 受益者負担については導入牛価格の1/2を負担額として決定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2- 農水産物輸送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-工		
担当部課名	産業振興課 農林水産班	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 - 1 - (6)	
事業内容	与那国町は、離島のさらに離島であるが為、地理的不利性を解消し、農水産業の活性化を図るため、与那国町漁業協同組合が出荷する生鮮水産物及び農業協同組合、農業生産法人、その他団体が出荷する野菜、果樹、薬用作物の沖縄県内への空路輸送料料に対し支援を行う。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	2,128	2,128	4,000	8,000
		(b)予算現額	2,355	2,128	3,308	8,000	8,000
		(c)増減額(b-a)	2,645	0	1,180	4,000	0
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	2,355	2,128	3,308	8,000	8,000
	B.執行済額		2,355	2,128	2,562	3,632	4,387
	うち交付金充当額		1,884	1,702	2,049	2,906	3,510
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	77.4%	45.4%	54.8%
予算の状況の説明		農産物の生産量が増加したため6月補正で予算額4,000千円を増額したが、生成水産物(カジキマグロ)の漁獲量が前年度より10パーセント減少したことで不用額4,368千円が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	生鮮水産物の空路輸送費支援の実施	目標	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助支援)	
		実績	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助支援	
	農産物の空路輸送費支援の実施	目標	()	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助)	(空路輸送費補助支援)	
実績			空路輸送費補助	空路輸送費補助	空路輸送費補助支援		
達成状況説明	生鮮水産物・農産物(野菜、果樹、薬用作物)の県内の空路輸送費補助を実施し、これまで輸送費が負担となり出荷されなかった生鮮水産物・農産物(野菜、果樹、薬用作物)の出荷が増加し、漁業者及び農業者の負担軽減及び経営安定が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	生鮮水産物:出荷量に占める沖縄本島への出荷割合:32.0%	目標	()	(40トン)	(出荷割合 32%)	(出荷割合 32%)	()
		実績		42トン	出荷割合 24%	出荷割合 30%	
	農産物:出荷量に占める沖縄本島への出荷割合:65.0%	目標	()	(21トン)	(出荷割合)	(出荷割合)	()
		実績		3トン	出荷割合 75%	出荷割合 68%	
進捗状況説明	・生鮮水産物の目標値32%に対し30%となった要因は、漁獲量(カジキマグロ)の県外価格が高値の取引であったことから、出荷割合の減少が生じたことによる。 ・農産物(薬用作物)の出荷目標が達成できた要因は、例年になく台風が襲来が少なかったことで、生産量が増加したことが大きな要因である。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮水産物については、気象状況や水産資源の減少及び取引価格等による変動が有ることから目標の達成に至っていない。 ・農産物については、薬用作物のみの実績となっており、他野菜類の生産量の増加を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カジキマグロ以外の魚種の漁獲量を増加させることにより、出荷割合の増加及び漁業所得が見込めることから、他魚種の漁獲量の増加を図る必要がある。 ・ビニールハウス等を活用した他野菜類の生産体制の整備を進めると共に、安定的な生産物の確保をはかっていく必要がある。

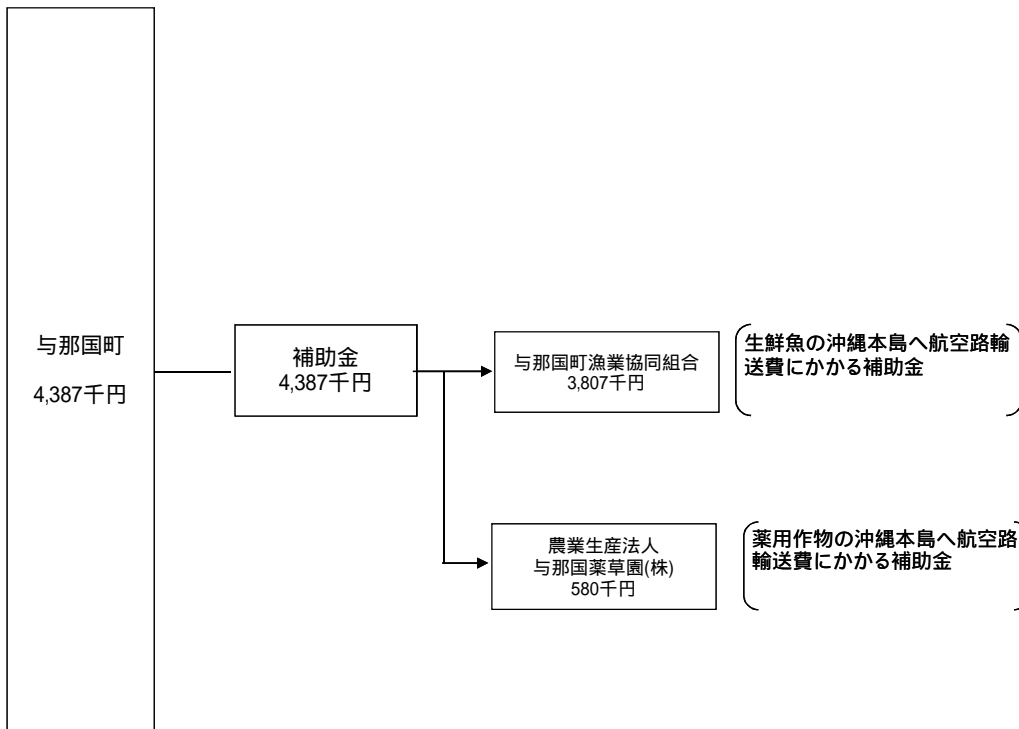
今後の取り組み方針

・今年度において未達成であった生鮮水産物の目標達成に向け、未利用資源である他魚種の漁獲量及び生鮮水産物の安定確保を図り、漁協運営状況、出荷状況等の支援を実施し事業効果の発現に取り組む。

・農産物については、ビニールハウスを活用した野菜類の生産量の安定的な生産を図り、更なる事業効果の発現に取り組んで行く。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
4,387	4,387	3,510	877	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	補助金の支出先については、漁業協同組及び農業生産法人を対象としていることから、支出先として妥当であると考えられる。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	農産物の生産高の減少に伴う不用額が生じているが、予算規模については妥当であったと考えている。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者負担については輸送実績を持って決定しており、妥当であったと考えている。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2- 与那国町漁業担い手育成プラン実施事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-工		
	担当部課名	産業振興課 農林水産班		事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
						- 1 - (6)	
事業内容	与那国町の漁業従事者団体に支援を行い、新規・既存漁業者に漁業設備の貸出をすることで漁業従事者の維持確保を図る。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ()	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	40,000	-	24,000	48,000	46,250
		(b)予算現額	69,966	-	24,000	48,582	46,250
		(c)増減額(b-a)	29,966	-	0	582	0
		(d)繰越額	-	41,599	-	-	-
		A.計(b+d)	69,966	41,599	24,000	48,582	46,250
	B.執行済額		28,367	35,274	21,144	48,582	38,844
	うち交付金充当額		22,693	28,219	16,915	38,866	31,075
	次年度繰越額		41,599	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		40.5%	84.8%	88.1%	100.0%	84.0%
予算の状況の説明		中古船購入価格が当初見積額より減額となったことにより5,365千円の不用額生じた。活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	漁業従事者団体が、操業に必要な漁船等を新規・既存漁業者に貸し付ける場合の購入に対し支援の実施	目標	(漁船等の購入及び貸付の実施)	(漁船等の購入及び貸付の実施)	(漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施)	(漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施)	
		実績	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付の実施	漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施	漁船等の購入及び貸付に対し支援の実施	
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	漁業従事団体が貸し付けるための船舶、エンジン及び装備品の購入に対し補助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(25年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(令和3年度)
	既存漁業従事者数の維持確保 33人以上	目標	(32人)	()	(32人)	(33人)	(40人)
		実績			32人	33人	
	【参考指標】 漁業経営の安定確保	目標	()	(32人)	(漁業経営の維持確保)	(漁業経営の維持確保)	()
		実績		32人	漁業経営の維持確保	漁業経営の維持確保	
	進捗状況説明	平成30年度は、新規就業者1人が増加したが、従事者数は前年度から1人増となった。今後の推移としてUターン者が数多く見込まれており、本事業を継続的に推進することで新規就業者及び既存漁業従事者の維持確保を図り漁業経営の安定化に繋げる。					

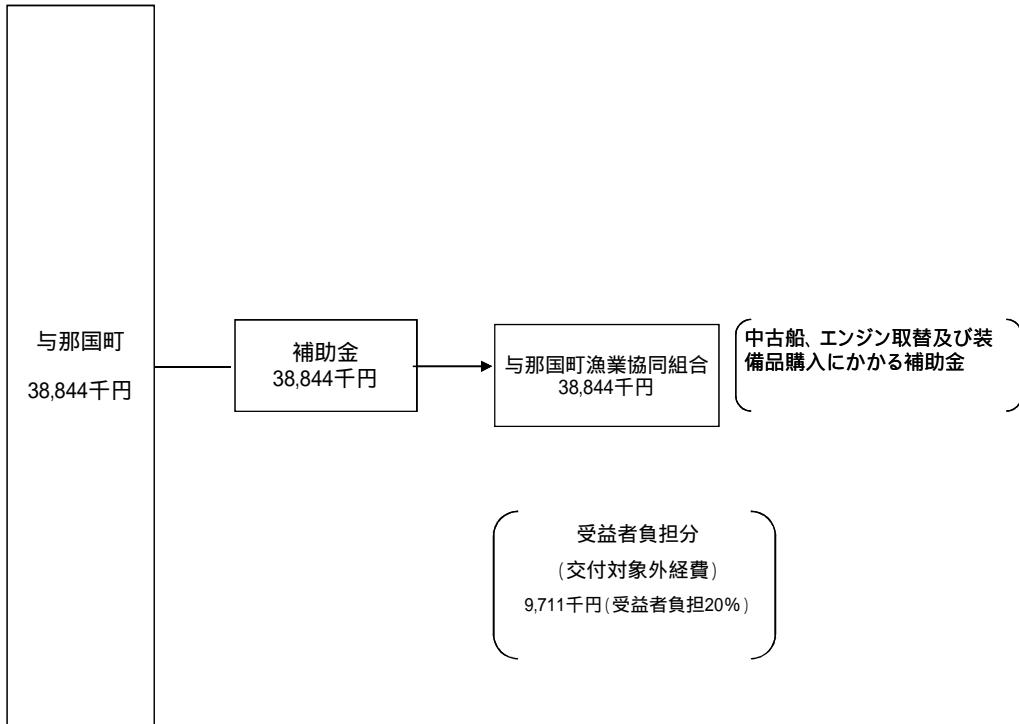
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・沖縄県地域漁業担い手確保事業を活用し、漁業従事者の確保を進めているが、年々応募者が減少している。	・漁業従事者の確保を図るため県外で行われている漁業就業者フェア等へ積極的に参加し、更なる漁業従事者の確保を図る必要がある。

今後の取り組み方針

・令和元年7月に、リターン者を対象とした水産業新規就業者用定住型住宅が完成することから、本住宅を活用し漁業従事者の確保の強化を図り、漁業従事者数の維持確保の取り組みを図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
48,555	38,844	31,075	7,769	9,711



評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 用途の 流れ、 点検 評価	支出先の選定方法は妥当か。	補助金の支出先については、漁業従事団体を対象としていることから、支出先として妥当であると考え、見積等を徴収し、予算規模を決定しており妥当であったと考えている。 受益者負担については事業費の20%負担しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

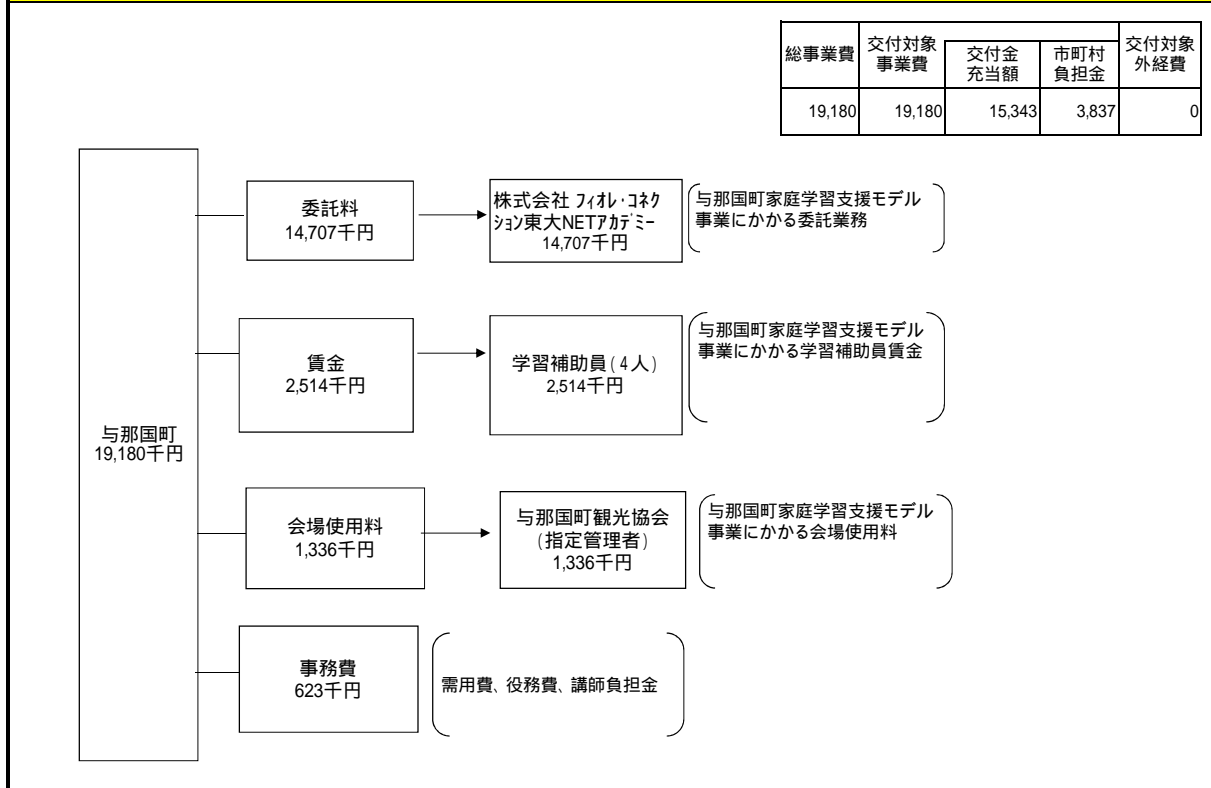
市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	家庭学習支援モデル事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-イ	
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3		沖縄振興基本方針該当箇所	生涯学習社会の実現	
事業内容	町内の小中学生の学力を向上させるため、学習習慣の確立補助を目的とした町営の学習塾を運営し、地理的、経済的要因等に左右されない教育環境の整備、都市部と同程度の教育環境の実現を図る。						
効果発現年度	当年度	後年度(年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,629	18,249	18,249	18,233	19,657
		(b)予算現額	16,229	18,249	17,549	17,273	19,737
		(c)増減額(b-a)	400	0	700	950	80
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	16,229	18,249	17,549	17,273	19,737
		B.執行済額	16,229	16,605	16,786	16,677	19,180
		うち交付金充当額	12,983	13,283	13,428	13,341	15,343
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	91.0%	95.7%	96.5%	97.2%
予算の状況の説明	学習塾で使用しているモニター修理費用として80千円を増額した。不用額387千円については委託の入札残や消耗品数量の減などによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	町営塾の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
	町営塾受講率:60%	目標	(60%)	(60%)	(60%)	(60%)	
		実績	38%	28%	46%	51%	
	遠方地域の受講生の送迎手段の確保	目標	()	()	()	(確保)	
		実績				確保	
	タブレット学習の実施	目標	()	()	()	(実施)	
		実績				実施	
学力テストの実施 4回	目標	()	()	()	(4回)		
	実績				4回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 町営学習塾を4月より開講した。 受講率は前年度より5ポイント増。内訳は、中学生1ポイント上昇、小学生は10ポイント上昇となった。 送迎手段は、他課と調整し、年度途中から他課が管理運行している町営路線バスを授業時間に合わせ運行した。 タブレット学習は、小学生を対象にプログラミング授業を実施した。 学力テストを実施した。 						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H29年度	H30年度	R元年度	目標値 (年度)
	月例学力検査(年4回実施)にて、各学年の年間平均偏差値50の達成割合: 小学校33.3%以上	目標	()	(33.3%以上)	(33.3%以上)		()
		実績			40%	14%	
	月例学力検査(年4回実施)にて、各学年の年間平均偏差値50の達成割合: 中学校19.0%以上	目標	()	(19.0%以上)	(19.0%以上)		()
実績				16%	24%		
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は前年度より8ポイント上昇し、24%となり目標に到達となった。 ・小学生は26ポイント減少となった。 						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(各学年の年間平均偏差値50の達成割合:中学校19.0%以上、小学校33.3%以上) ・今年度から中学生の授業を一部、学習進捗度に応じ、クラスを分割したことが目標達成の要因と考えられる。 ・小学生の目標が達成できなかった理由は、講師、支援員のフォローが行き届かない児童生徒が増えたことが考えられる。学習進捗度に応じたクラス分けを、コマ数、教室数、授業時間の関係で十分に行えなかった。	(各学年の年間平均偏差値50の達成割合:中学校19.0%以上、小学校33.3%以上) ・学習進捗度に応じたクラス分けにより達成割合が向上したことから、引き続き行っていく。 ・支援員のフォローの改善、質の標準化を図る。

今後の取り組み方針
・児童生徒が自身の学力進捗に合った環境で学べるように、各学力テストの結果と教室内の様子を踏まえ、クラス編成を検討・実施する。 ・学習支援業務の均一化、向上を図るため、支援員業務マニュアルの見直しを行う。また、支援方法についての研修等を計画、実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上、指名競争入札により選定している。学習支援員の賃金は、与那国町資金職員雇用管理規程に基づき確認の上で支出しており、妥当であった。 予算規模は委託の入札残、消耗品数量等により不用額が生じたが、事業費の5%以内であり適正な規模であった。 費目・用途については、額の確定時に確認した。事業目的達成のため、必要なものであり適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町												
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】														
事業番号・事業名	4 - 教育諸活動助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章 - 5 - (2) - 1									
	生涯学習社会の実現		沖縄振興基本方針該当箇所		- 3 - (1)									
担当部課名	与那国町教育委員会 総務課		事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度										
事業内容	町内の児童生徒の各種大会派遣費(航空運賃等)を支援することにより、与那国町に住む子供たちが持つ多様な能力・才能を発揮する機会を提供し、本町の未来を拓く子供たちの能力向上を図る。													
効果発現年度	当年度		後年度(年度)											
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度		H27年度		H28年度		H29年度		H30年度				
		(a)当初予算額	12,946	8,000	10,000	12,000	10,000	12,978	10,101	12,900	16,320	10,000		
		(b)予算現額	9,278	10,101	12,900	16,320	10,000	9,278	10,101	12,900	16,320	10,000		
		(c)増減額(b-a)	3,668	2,101	2,900	4,320	0	-	-	-	-	-		
		(d)繰越額	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	A. 計(b+d)		9,278	10,101	12,900	16,320	10,000	B. 執行済額		9,278	9,586	12,499	14,826	8,501
	うち交付金充当額		7,422	7,668	9,995	11,860	6,801	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	94.9%	96.9%	90.8%	85.0%	予算の状況の説明						
			天候不良などで大会派遣を実施できないこともあり不用額が1,499千円発生したが活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。											
	活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況										
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度									
各種大会派遣の実施		目標 (各種大会派遣の実施)	(各種大会派遣の実施)	(各種大会派遣の実施)	()									
		実績	派遣回数59回	派遣回数71回	派遣回数50回									
達成状況説明	町内5校の児童生徒を陸上・卓球・バドミントンのスポーツ系の大会や、英語スピーチコンテスト、吹奏楽祭、地区中学校文化祭等の文化系の大会等、各種大会へ派遣した。今年度は昨年に比べ回数的に減っているが台風で欠航や各学校での行事が重なったことが要因となっている。													
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(23年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)							
	対象児童生徒の視野が広がったか(80%以上)を含め、児童生徒の保護者に対してアンケートを取り、本事業のあり方を検証する。		目標 ()	()	()	(80%)	()							
			実績			未実施								
	【参考指標】各種大会派遣人数(H30年度 432人)		目標 (400)	(390)	(450)	(432)	()							
		実績		525	679	447								
進捗状況説明	アンケートが未実施となり、本事業をとおして子供たちの知識や視野を広める効果があったのかの検証が不十分となった。													

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・アンケート調査が未実施となった。 [アンケート内容や実施回数の精査に時間を要してしまい今年度は期間的に実施しても有効なデータが取れないと判断をしたため。] 次年度はアンケート調査を行い、成果目標の検証を行います。</p>	<p>・多くの児童生徒が制度を活用し、町外、県外大会に出場できるよう、部活動の振興を学校をとおして行っていくとともに、対象児童生徒の視野を広げるため、引き続き助成事業に取り組みアンケート実施をし、目標達成につなげる。</p>

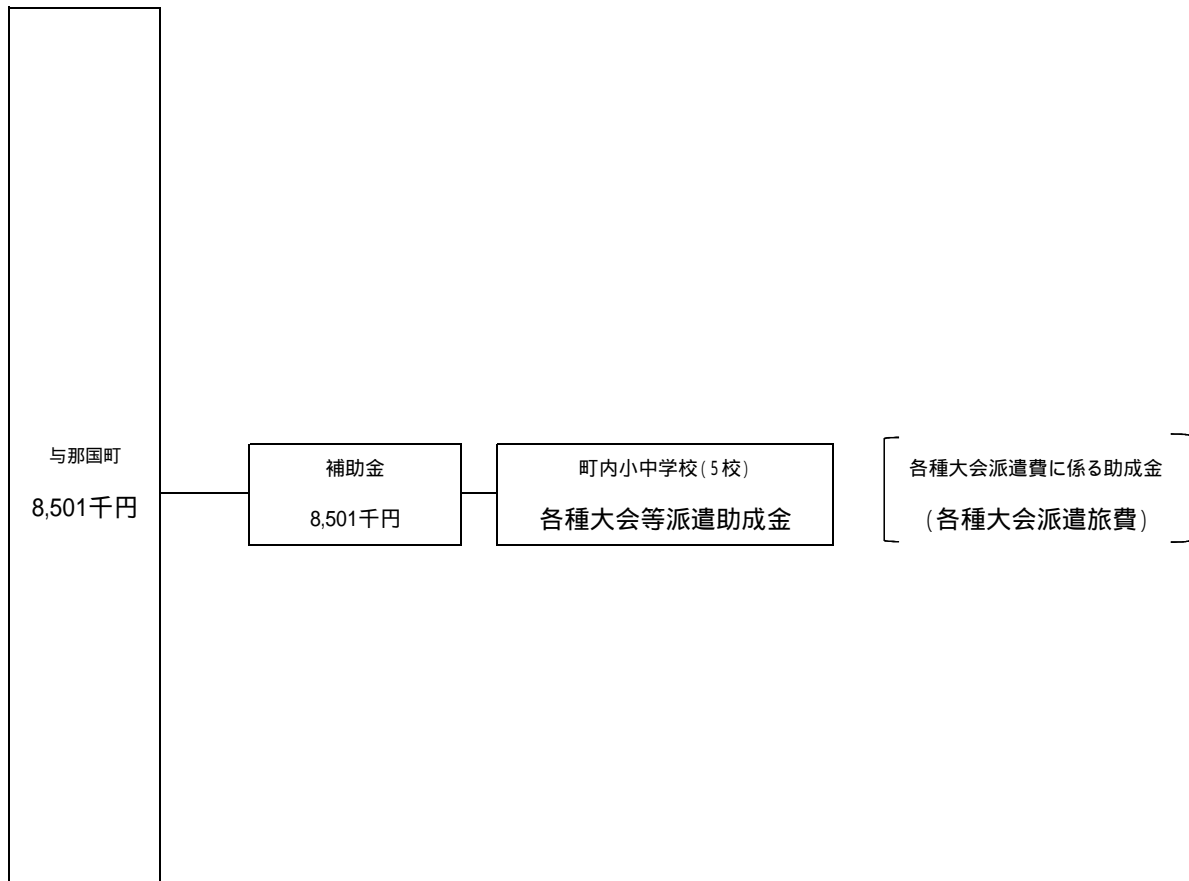
今後の取り組み方針

・アンケートの実施に向けて年度の早期に内容選定や実施時期の計画を策定し有益なアンケートデータを取得できるようにする。

・学校を通じた支援を行い、児童生徒が町県外での大会に参加し、よりレベルの高い環境でプレーする経験を積むことにより、部活動の振興、強化を図る。各スポーツ活動文化活動の団体とも連携を密にし、多くの児童生徒が参加でき児童生徒自身の心と体の健やかな成長を促進する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,501	8,501	6,801	1,700	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>* 児童生徒派遣費等補助金交付要綱により、派遣大会及び派遣対象児童生徒を確認の上で決定しており、支出先の選定方法は妥当であったと考えている。</p> <p>* 費用、使途については事業目的達成の観点から必要な額を確定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。1千万円の予算を計上していましたが決算上8501千円の実績でした。一括交付金で旅費、宿泊負担はありませんでしたがその他は自己負担。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	地域国際交流事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-5-(4)-ア	
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 -3-(1)	
事業内容	本町の姉妹都市である台湾花蓮市へ町内小学6年全児童を派遣し、タバロン小学校での交流授業やホームステイを通して異文化体験を行い、異文化適応能力と言語コミュニケーション能力を培うことで国際社会に対応する人材の育成を図る。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,172	3,432	3,002	3,634	4,507
		(b)予算現額	2,638	3,230	3,002	3,531	4,507
		(c)増減額(b-a)	534	202	0	103	0
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	2,638	3,230	3,002	3,531	4,507
	B.執行済額		2,638	3,230	2,897	3,531	4,507
	うち交付金充当額		2,111	2,583	2,317	2,825	3,605
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	96.5%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標を鑑みると当初の目標は達成されており、予算の執行は適切であったと考えられる。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・ホームステイの実施(21人) ・ホームステイ報告会の実施 ・報告書の作成	目標	(13人)	(15人)	(16人)	(21人)	
		実績	14人	14人	16人	21人	
	・保護者・学校へ事後アンケート実施	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績	実施	実施	実施	実施	
達成状況説明	・予定どおりの日程で事業を実施し、町内小学6年全児童を花蓮市へ派遣することができた。 ・報告書は新聞の形式をとり、全児童が作成・掲示を行った。また、与那国小学校は5年生児童を対象にスライドを用いた報告会を実施。久部良小学校は授業参観で新聞を用いた報告会を、比川小学校は学芸会で報告をそれぞれ実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (30年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (年度)
	・帰国後、児童の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方を検証する。	目標	(80%以上)	()	()	()	()
		実績	50%				
	【参考指標】 大多数の保護者が国際的視野が広まったと考えられる値として設定	目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	・アンケートは全児童保護者20世帯(内双子が1世帯)を対象に実施した。16名より回収。 ・「帰国後、派遣出発前に比べて外国に興味を持つようになった」との問いに8名が肯定、2名が否定、6名がわからないと回答し、肯定的な回答が5割にとどまった。						

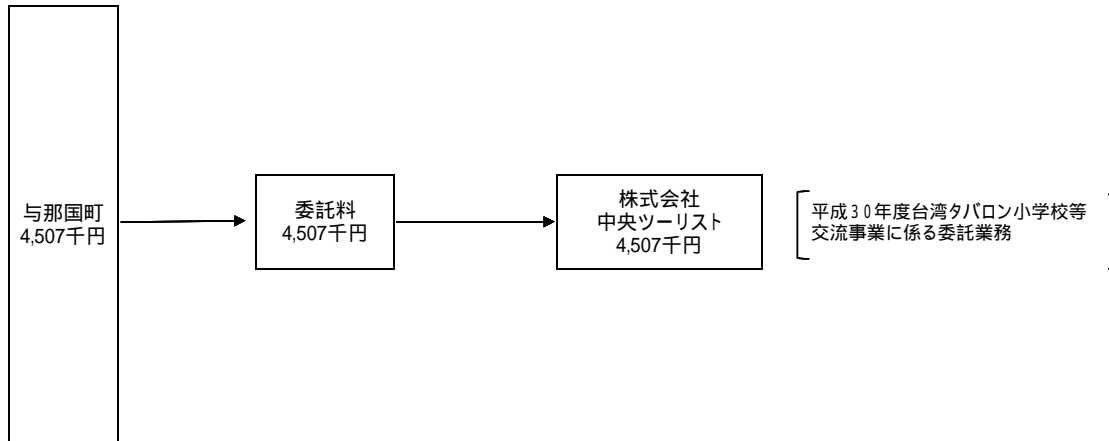
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(アンケート) ・アンケートの配布・回収を児童を通して行っていることもあり、確実な配布が行えているか疑問が生じる。 ・10月下旬の派遣からアンケート配布の12月まで期間が短く、変化を感じづらかったと考えられる。 ・アンケートの設問を精査する必要がある。	(アンケート) 成果目標値である80%以上の達成に向けて、アンケートの配布・回収方法、アンケート実施時期、設問内容について見直しを行う。

今後の取り組み方針

・配布は郵送で行い、アンケートを確実に保護者のもとへ届けるとともに、保護者説明会でアンケートについての説明と提出の依頼を行う。また、今年度よりICTを利用した事後交流授業を1月に実施するため、アンケートは2月に行うことで児童の変化を観察する期間を長く設定する。
・アンケートの内容についても国際的な興味・関心の有無やコミュニケーションについて問う設問と本事業への意見に絞り、今後の事業改善へ繋げるものとする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,507	4,507	3,605	902	



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は実績、知識、企業組織等を勘案したうえで指名競争入札に附し選定を行ったため、妥当であったと考えられる。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予定どおりに執行されており適正であったと考えられる。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	現地滞在費、渡航費以外に係る費用は受益者が負担しており、負担関係は妥当であると考えられる。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	委託金額確定時に支出に関する資料を点検したが、適正であると認められた。

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	与那国町ジュニア海外語学研修派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-3-(12)-オ	
担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と貢献による離島の新たな振興 -3-(1)	
事業内容	町内の中学生を対象として、ジュニア期の早い時期に欧米への短期ホームステイの支援を行い、豊かな国際感覚を身につけた人材の育成等を図る。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,676	3,116	3,120	2,550	2,800
		(b)予算現額	3,042	2,868	2,542	2,800	2,707
		(c)増減額(b-a)	366	248	578	250	93
		(d)繰越額	-				
		A.計(b+d)	3,042	2,868	2,542	2,800	2,707
	B.執行済額		3,042	2,867	2,465	2,729	2,696
	うち交付金充当額		2,433	2,293	1,972	2,183	2,156
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	97.0%	97.5%	99.6%
予算の状況の説明		予算の執行率は99.6%となったが、当初契約より変動を受けた燃料代や研修旅費)によるものであり、計画していた事業はすべて実施している。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	短期海外語学研修派遣事業の実施 4名	目標	(アメリカ 2人 イギリス 2人)	(アメリカ 4人)	(アメリカ 4人)	(アメリカ 4人)	
		実績	アメリカ 4人	アメリカ 4人	アメリカ 4人	アメリカ 4人	
報告会の実施 報告書の作成 保護者、学校へ事後アンケート実施 過去の派遣生徒へ進路調査を実施(H24～H26)	目標	()	()	(実施)	(実施)		
	実績			実施	実施		
達成状況説明	・アメリカワシントン州、カリフォルニア州に4名の生徒を派遣した。今年度はあえて生徒たちの滞在先を分散させることで、よりコミュニケーション能力の向上につながったと考えられる。 ・報告書は1人あたり10ページ前後。与那国中学校は創立70周年記念事業にて、久部良中学校は文化祭にてそれぞれ保護者、生徒、地域住民を対象に報告会を行った。 ・過去の派遣生徒8名にアンケートを送付し、5名より回答を得た。うち2名が外国語に関連する学校に在学しており、5名全員が現在も外国への興味・関心を持っていることが分かった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (H30年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値 (年度)
	帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業の在り方を検証する。	目標	(80%)	()	()	()	()
		実績	100%				
	【参考指標】 大多数の保護者が派遣後の中学生に国際的な感覚が身につけていると考えられる値として設定	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	・アンケートは派遣生徒、保護者、教諭(英語担当、学級担当)を対象に10月実施した。保護者4名、生徒4名、教諭4名全員より回収。保護者4名からの回答を集計した結果、生活態度や性格に変化が生じた4名、国際的な事柄への興味関心を持つようになった4名と目標値に達した。						

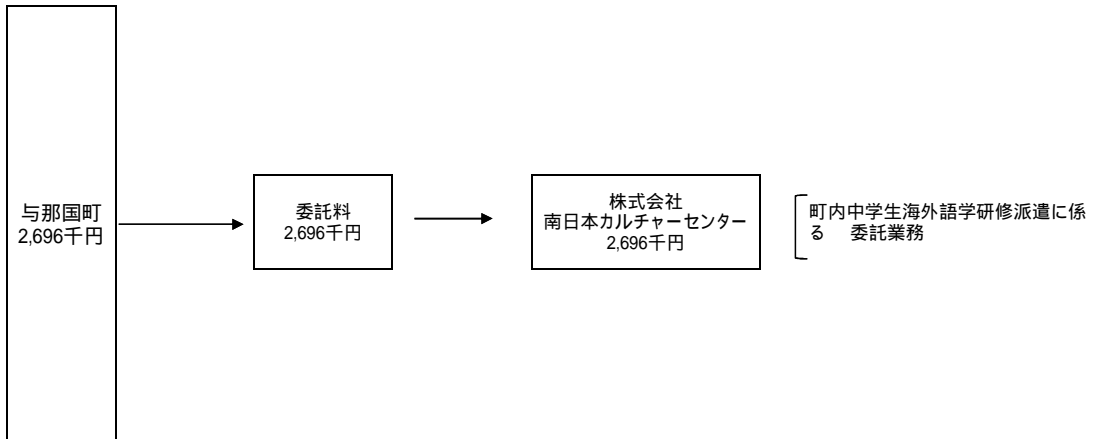
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(アンケート) 3週間と比較的長くアメリカに滞在することが、保護者が変化を肯定的に捉えられた要因であると考えられる。また、中学生は英語の資格取得やテストなど意欲が数字で表されることも変化の実感につながると推測できる。	(アンケート) 平成31年度も成果目標として引き続きアンケートを実施し、80%以上の保護者が子どもに変化が生じたと感じられるような事業を実施する

今後の取り組み方針

・次年度以降も引き続き3週間ほどのホームステイ派遣を行い、言語コミュニケーション能力の向上と国際社会に適応する能力を身に着けた人材の育成を図る。
 ・派遣前・派遣中・派遣後の目標を設定することで、目標達成のための具体的な手段を明確にし、客観的に成長を判断できるよう促す。
 ・派遣中の日々の変化を保護者や教員、その他第三者(教育委員会)が感じとることができる事後報告書を委員会で作成し、提出を求める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,696	2,696	2,156	540	



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検評価		支出先の選定方法は妥当か。	指名競争入札が不落到終り随意契約を行った。申込期日に余裕があることを念頭に派遣実績、企業組織、プログラム内容を助案した上で選定を行い、妥当であったと考えられる。 執行額に減額があったものの適正であったと考えられる。研修や滞在、渡航に係る費用以外は受益者の負担となっており、負担関係は妥当であったと考えられる。 委託金額確定時に支出に関する資料を点検したが、適正であると認められた。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	与那国町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	与那国方言保存継承支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(4)-ア	
担当部課名	与那国町教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成24年度～30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	伝統文化と保全・継承及び新たな文化の創造 -3-(1)	
事業内容	本事業は、2009年UNESCOに消滅危機言語として登録された与那国語の記録保存と伝承、再活性化を目的とし、主として辞書作成を行う。並行して、保存継承のための企画を展開して衰退しつつある言語の使用を推奨する。						
効果発現年度	当年度 後年度(年度)						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,310	6,766	9,878	7,403	5,598
		(b)予算現額	6,000	5,115	8,096	7,403	5,598
		(c)増減額(b-a)	3,690	1,651	1,782	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	6,000	5,115	8,096	7,403	5,598
	B.執行済額		6,000	3,933	7,433	7,328	5,551
	うち交付金充当額		4,800	3,146	5,946	5,862	4,441
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	76.9%	91.8%	99.0%	99.2%
予算の状況の説明		・事業執行率が99%となり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・編集委員会による素案原稿の審議		目標 (専門家の雇用)	(専門家の雇用)	(専門家の雇用)	(審議18回)	
			実績 専門家の雇用	専門家の雇用	専門家の雇用	審議22回	
	・与那国語の概略についての執筆(専門家に依頼)		目標			(執筆6ページ)	
		実績			執筆6ページ		
・スンカニ大会の開催		目標 (方言イベント2回)	(スンカニ大会開催)	(スンカニ大会開催)	(スンカニ大会開催)		
		実績	方言イベント1回	スンカニ大会開催	スンカニ大会開催		
達成状況説明		・雇用した専門家を中心に、22回の編集委員会を開催し、素案原稿を最終的な辞典原稿に仕上げることができた。 ・与那国語の概略について、執筆を協力者の言語学者へ依頼し、辞典の内容を充実させることができた。 ・スンカニ大会を開催することで、与那国方言に親しみ、次世代へ継承する機会を創出した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	・与那国語辞典の作成完了		目標 ()		(素案完成)	(辞典発刊)	()
			実績		素案完成	辞典発刊	
	ドゥナンスンカニ大会の開催 歌唱の部8人以上、作詞の部23人以上		目標 ()	()	()	(歌唱8名、作詞23名)	()
			実績		歌唱8名、作詞21名	歌唱6名、作詞25名	歌唱9名、作詞35名
進捗状況説明		・最終的に約1,700語の語彙を見出し語として、整理・分類し、例文を付与して辞典としての体裁を整え、辞典を発刊した。 ・2月にドゥナンスンカニ大会を開催し、歌唱の部に9名、作詞の部に35名(55首)の応募があった。					

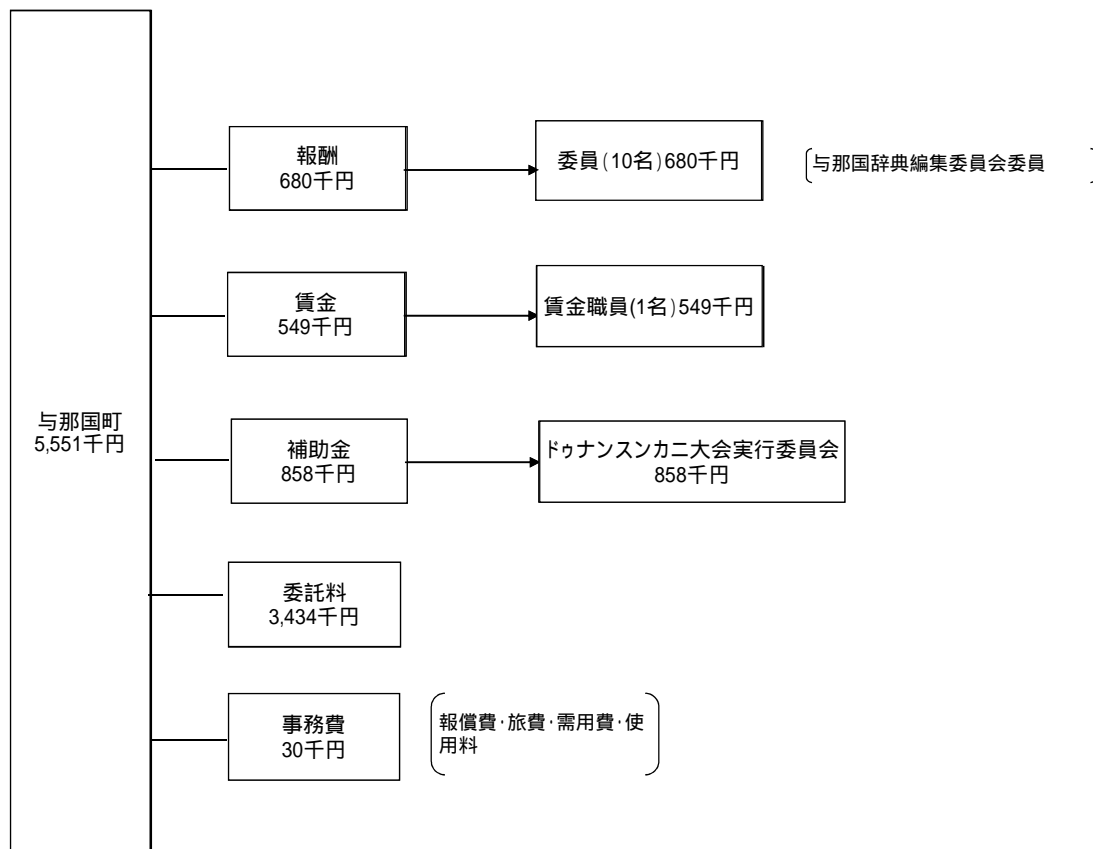
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 方言習得に必要であった例文豊富な辞典が完成したが、事業期間中にも、母語話者、人口の減少、島外出身者の割合増など、方言の保存継承には危機的な状況は進行している。 ドゥナンスンカニ大会は、28年度に4年ぶりに開催してから、3年連続の開催となり認知度が高まったことで、目標参加者数を上回ることができたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 母語話者にも非母語話者にも、与那国方言を保存継承したいとの思いを持つ町民は少なからず存在する。辞典やこれまでに作成したツールを有効に活用し、方言に親しみやすい環境づくりを進めていく。 歌唱の部、作詞の部とも参加者が増加する傾向がみられる。伝統文化の源は方言であり、辞典を有効活用すれば、歌詞の意味の理解が深まり、作詞にも役立ち、さらに参加者が増えることが見込まれる。

今後の取り組み方針

本事業では与那国語を母語としない層に対して、与那国語の資料と与那国語に触れる機会を提供してきた。具体的には、与那国語辞典や方言ラジオ体操などの方言保存継承のためのツールの作成、途切れていたドゥナンスンカニ大会の開催、専門家による講座等である。その結果、潜在的に与那国方言を話したいと思う人が少なからず存在することが明らかとなり、事業で習得した知識やツールを活用し、積極的に学校や各種行事で方言を使うようになった人もいる。今後は事業の成果として現れた人材を活用し、方言保存継承に向けた取り組みを強化していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,551	5,551	4,441	1,110	0



資金の流し、使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	ドゥナンスンカニ大会実行委員会からの補助金交付申請により事業内容を確認の上で決定しており、妥当であった。予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-	安心・安全のまちづくり支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	長寿福祉課	事業実施(予定)年度	平成25年～令和3年		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 -4-(1)	
事業内容	就学前児童及び小学校3年生以下を対象として、教育課程に係る教育時間終了後に公共施設の一角を利用して、子どもにとって安心・安全な場所を設け、遊びの場を提供し、保護者の子育てを支援する。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
		(a)当初予算額	3,456	3,456	5,184	4,680	5,473
		(b)予算現額	3,983	5,032	5,538	5,346	3,991
		(c)増減額(b-a)	527	1,576	354	666	1,482
		(d)繰越額	-				
	A.計(b+d)	3,983	5,032	5,538	5,346	3,991	
	B.執行済額	3,983	4,998	5,538	5,346	3,991	
	うち交付金充当額	3,186	3,997	4,430	4,276	3,192	
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)	100.0%	99.3%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	支援指導員の人員不足により1,482千円の減となっている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	どなん児童クラブの運営	目標	()	()	()		
		実績					
	指導員3名の体制維持	目標	(2名)	(3名)	(3名)	(3名)	
実績		3名	3名	3名	2名		
達成状況説明	子育て支援指導員3名の配置目標であったが、2名の配置となった。子ども、保護者にとって安心・安全な居場所の確保はできているものの、支援員の負担は大きかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度		目標値(R2年度)	
	安心・安全に子どもを預けることができ、育児に関する負担感が軽減されたと感じたか(80%以上)を含め、保護者へのアンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標	()	(80%)		
			実績		35%		
進捗状況説明	アンケート結果、育児に関する負担感が軽減されたと感じたは35%であった。その中で利用するにあたり障害となっていることもアンケート実施で見えてきた。その点を改善していく事で、安心・安全に子育てを支援していく環境を整えていきたい。						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	推進上の問題として、支援員の質の向上と保護者が預けやすい環境整備が必要。	有資格者の確保、支援員の定期的な研修への参加を図ること。また、保護者が預けやすい環境整備として送迎を開始する等、改善の余地がある。

今後の取り組み方針

有資格者支援指導員の確保に向けては、庁舎内関係課と協議していく必要がある。支援指導員の質の向上に向け、町内保育所での研修の場を増やしていくこととする。また、アンケートの結果をふまえ、その他の問題点の改善も図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
3,883	3,883	3,106	777	



資金の 使途の 流れ、 費目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	預かり人数が35名前後の規模であり、支援指導員は3名(1職員15名程度)の配置が適正としている。 費目・使途については事業目的達成のためにも必要な経費に支出されていることから予算規模は妥当と考えられる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-	少子高齢化対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	長寿福祉課 福祉班		事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 -4-(1)	
事業内容	本町唯一の医療機関である与那国診療所には、各専門医がないため、出産又は専門医療を受けるためには、島外の石垣島へ通院する必要がある。そのため妊娠から出産までに必要となる渡航費等の費用について支援を行う。							
実施方法	直接実施		委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		(a)当初予算額		1,507	1,507	1,551	3,900	2,228
		(b)予算現額		2,133	1,507	2,851	955	1,328
		(c)増減額(b-a)		626	0	1,300	2,945	900
		(d)繰越額		-	-	-	-	-
		A.計(b+d)		2,133	1,507	2,851	955	1,328
		B.執行済額		2,133	936	2,480	955	1,272
		うち交付金充当額		1,461	748	1,983	764	1,117
		次年度繰越額		0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)		100.0%	62.1%	87.0%	100.0%	95.8%
予算の状況の説明		平成29年度途中より宿泊費に関する補助規定の見直しを行ったので予算を減額した。補助対処者数は、平成29年度より減少したが、宿泊費を利用する者が増えたため、事業費が前年度より増となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H29活動目標(指標)		達成状況					
			27年度	28年度	29年度	30年度		
	・妊産婦定期健診・出産時の渡航費、宿泊費の助成事業	目標	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)	(渡航費補助)		
		実績	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助	渡航費補助		
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	・母体の心身の変化が著しい時期である妊娠、出産期において、渡航費補助を継続し経済的負担の軽減を図ることで、妊産婦の定期健診を実施することができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H29成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	島外での妊産婦健診等医療サービスが必要な方のうち、支援を受けて渡航した方の割合 100%	目標	()	()	()	(100%)	()	
		実績				95%		
	【参考指標】 妊産婦定期健診、渡航費の助成対象者	目標	()	(11名)	(20名)	(20名)	()	
		実績		29名	31名	19名		
	進捗状況説明	・人口増加が落ち着いたが、平成30年度の妊産婦の人数は減少となった。 ・第二子以降の出産が半数以上であり、事業の継続的な実施により定住環境の改善への取り組みが進んだと判断している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・正常でない分娩に対しての助成対応がない(高度周産期医療は、当町の診療所では、対応できないので、宿泊等の経費がかかる。)ため、高度周産期医療への追加支援策をH30年度より取り入れた。 ・毎年該当者がいるわけではないが、高度周産期医療は、医療費等がかかるため妊産婦の負担が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常出産では対応が困難な事例の妊産婦(高度周産期医療)への追加支援策を実施したが、H30年度は該当者がいなかった。

今後の取り組み方針

・妊産婦が増加となっている現状も踏まえて、事業の効果は確実であり一定の評価も得ていると思われる。このことから、今後も継続的な支援策の実施は必要であるため、恒久的な事業として取り組んでいく。

・通常出産では対応が困難な事例に対応するため、今後も、出産後に起こり得る精神的不安や経済的不安にも対応していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,116	1,116	893	223	0



資金の流 れの流 れ、費 目、 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦通院費助成金交付金申請により、対象者及び実績を確認の上で決定しており、妥当であると判断している。 ・執行額に減額があったものの、ほぼ規模に適合しており適切であった。 ・費目・用途については、事業内容に即した適切な内容であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 -	公共交通路線支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 3 - (11) - ウ	
担当部課名	企画財政課 交流推進班	事業実施(予定)年度	平成24～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化 - 9 - (1)	
事業内容	地方バス運営に必要な経費を支援することにより、生活路線バスの安定的な運営を維持し、定住するために必要な条件を整備すると共に、来島者の利便性向上も図る。						
効果発現年度	当年度	後年度(年度)					
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	3,000	4,552	4,552	13,349
		(b)予算現額	3,000	3,000	4,552	4,552	18,526
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	5,177
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	3,000	3,000	4,552	4,552	18,526
	B.執行済額		3,000	3,000	4,531	4,519	18,526
	うち交付金充当額		2,400	2,400	3,625	3,614	14,820
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	99.5%	99.3%	100.0%
予算の状況の説明 ・活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。							
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	公共交通路線バス運行費用への支援	目標	(運行支援)	(運行支援)	(運行支援)	(運行支援)	
		実績	運行支援	運行支援	運行支援	運行支援	
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	・公共交通路線バスの運行費用への支援を行い、また、利便性(バリアフリー化)のあるバス車両を更新し観光客等及び地域住民の利便性向上を図り、定住するための必要な条件を整備をした。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	31年度
	利便性の確保が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(路線バス運行実施)	(年間2,555便 / 8,111人)	(80%以上)	()
		実績		(路線バス運行実施)	(年間2,546便 / 9,306人)	利便性79%	()
	【参考指標】公共交通路線バス運行便数	目標	()	(年間2,555便 / 8,338人)	()	()	()
		実績		年間2,546便 / 9,306人			
進捗状況説明	・路線バスの安定的な運営を維持し、運転が困難な高齢者や園児児童生徒及び来島者の利便性向上を図った。 ・一部目標(80%)に達成していない原因としては、終着地点の変更に伴うものであり利用客数は増加傾向にある。						

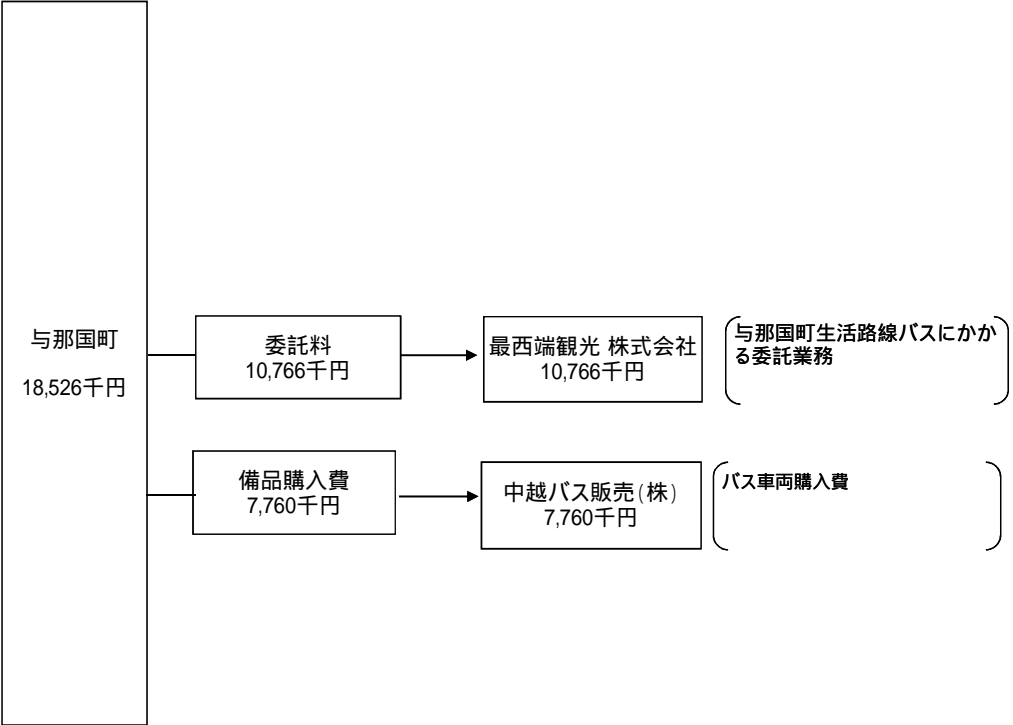
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 観光客及び町民の利用が増加傾向にあり、島内での公共交通が路線バスのみとなっていることからニーズ合った運行に努め利便性80%以上を目指す。 アンケート調査結果(地元利用率50%、島外利用率50%)を基に今後ニーズに見合った運行を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 安定的な運行やニーズに見合った路線に対応する。具体的には利用率アップを図るための運行時間帯の検討や地域間での交通の改善(路線の検討)をバス対策会議で検討し公共交通の利便性且つ利用率向上を図る。

今後の取り組み方針

・利用者の多様化に伴い、利便性と安定的な運行を図るとともに地域振興に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
18,526	18,526	14,820	3,706	0



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>与那国町では現在、大型観光バス業務及びタクシー業務等を行っている事業者が1事業者しかいないため、その事業者と随意契約により委託契約を締結している。これまでの実績等も助成した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>販売業者は、指名競争入札にて選定されており、妥当であったと考えている。</p> <p>予算規模は事業内容に見合った適正な規模だと考える。</p> <p>費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		与那国町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8 -	離島食品・日用品輸送費等支援実証事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	総務課 総務班	事業実施(予定)年度	平成28～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 -9-(1)	
事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島及び石垣島から与那国島へ輸送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。						
効果発現年度	当年度		後年度(年度)				
実施方法	直接実施		委託		補助 負担 その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H28年度		H29年度		H30年度	
		(a)当初予算額	9,714	16,361	12,000		
		(b)予算現額	9,714	16,351	14,483		
		(c)増減額(b-a)	0	10	2,483		
		(d)繰越額					
	A.計(b+d)		9,714	16,351	14,483		
	B.執行済額		9,498	12,572	12,161		
	うち交付金充当額		7,598	10,057	9,728		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		97.8%	76.9%	84.0%		
予算の状況の説明		成果目標等達成状況を鑑みておおむね適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度		
	食品・日用品等の輸送経費及び作業経費の支援	目標	輸送経費及び作業経費の支援	輸送経費及び作業経費の支援	輸送経費及び作業経費の支援	()	
		実績	輸送経費及び作業経費の支援の実施	輸送経費及び作業経費の支援の実施	輸送経費及び作業経費の支援		
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	航路事業者2社へ本事業の対象となる食品・日用品等の輸送費と輸送実績に応じた事務費(作業経費)の補助を実施したことで、島内小売店が販売する食品・日用品の価格が低減され住民生活を支援することが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H28年度	H29年度	H30年度	目標値(年度)
	生活必需品等の価格について沖縄本島を100とした場合の本町の指標における事業実施前との差 -8.2ポイント以下	目標	()	()	()	(-8.2)	()
		実績				-5.5	
	沖縄本島との生活必需品等の格差(沖縄本島を100とした場合の指数)の縮小 【参考指標】 H27指標:134.3程度	目標	()	(100)	(100)	()	()
		実績		126.1	133.1		
進捗状況説明	・沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差が、事業開始前(H27)の134.3ポイントからH30の時点調査において128.8ポイントとなった。 ・区分別にみると、乳卵・野菜・肉類等は、事業開始前より下がっているが、飲料・加工食品において格差の大きい状況が続いている。						

